

## ターボ機械協会誌 執筆要領

<b>目次</b>	<b>P1</b>
<b>1章 原稿表紙</b>	<b>P2</b>
1-1 一般事項	P2
1-2 記載留意事項	P2
<b>2章 原稿執筆の注意点</b>	<b>P3</b>
2-1 用紙および文字数	P3
2-2 アブストラクトおよびキーワード	P3
2-3 本文	P4
<b>3章 図(写真を含む)および表</b>	<b>P4</b>
3-1 取り扱いについて	P4
3-2 作成について	P4
3-3 留意事項	P5
<b>4章 量記号および単位記号, 文字, 数字記号および式について</b>	<b>P5</b>
4-1 文字の指定	P5
4-2 用字・用語例	P6
4-3 単位・量記号	P6
4-4 数学記号および式	P6
<b>5章 参考文献について</b>	<b>P7</b>
<b>6章 照会および校正</b>	<b>P7</b>
<b>7章 電子データ入稿要領</b>	<b>P8</b>
<b>8章 入稿に必要なもの</b>	<b>P8</b>

### ターボ機械協会

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6 丁目 3 番 2 6 号 (日本工業出版ビル)

Tel:03-3944-8002

Fax:03-3944-6826

E-mail: turbo-so@pop01.odn.ne.jp

### 1章 原稿表紙

## 1-1 一般事項

1. ターボ機械協会から送付される原稿表紙に必要事項を記入すること。

## 1-2 記載留意事項

### 1. 掲載欄

- (1) 掲載欄は該当するものを○印で囲むこと。

### 2. 題目

- (1) 題目は執筆内容を明確に示し、しかも簡潔なものが望ましい。
  - ア. 非常に一般的で、単行本の題目となるようなものは避ける。
  - イ. 必要に応じて、副題をつけることもできる。
  - ウ. 会社名、製品名を題目に使用しないように配慮する。

### 3. 英文タイトル

- (1) 英文タイトルは必ず記入する。
- (2) 英文タイトルは和文タイトルの直訳である必要はないが、同一内容とすること。
- (3) 英文タイトルは以下の細則によること。
  - ア. タイトルの各単語(途中にくる冠詞、前置詞などを除く)の先頭の文字は大文字で表記する。
  - イ. ハイフンを用いて作られる複合語は原則として一般的に用いられている単語に限ること。  
また、ハイフンの後は大文字にすること。
  - ウ. 現在分詞、過去分詞の頭文字は大文字とするが、including、excludingなどの前置詞として使用される言葉は小文字とすること。
  - エ. inside、outsideを名詞、形容詞、副詞として使う場合は大文字とし、前置詞として使う場合は小文字とすること。
  - オ. 和文でかぎ括弧「」を使用している場合、英文ではダブルクォーテーション“ ”を使用すること。
  - カ. TurbomachineryはTurboとmachineryで分けて一語にすること。複数形は使用しない。
  - キ. 可算名詞が単数形の場合、不定冠詞aもしくはanを付けること。
  - ク. 不可算名詞の前には冠詞を原則として付けないこと。
  - ケ. 定冠詞theは必要と判断される場合に付けること。例えば、タイトルの中で前出の場合、最上級の形容詞と共に使う場合、唯一の物や人に使う場合など。

### 4. 執筆者および連名者

- (1) 著者英文名(執筆者および連名者)は名、姓の順とし、名は最初の文字のみ大文字、姓は全て大文字で表記する。  
例 機械 太郎 → Tarou KIKAI
- (2) 著者の勤務先は事業所名、学部名またはこれに準じる名称まで記入する。  
例 ○○機械(株) ○○事業所 または ○○大学<sup>※1</sup> ○○部  
※1 大学 大学院 大学 大学院 の区別がわかるように明記する。
- (3) 退職している場合は、差し支えない限り旧勤務先を記入する。

### 5. 連絡先

- (1) 代表者(連絡先)がE-mail アドレスを所有している場合は記載すること。このアドレスは照会等に用いられると共に各記事の第1ページ脚注に掲載される。
- (2) E-mail アドレスの記載を希望しない場合は「掲載不可」に○印すること。

6. 機種別分類および現象別分類

- (1) 該当する機種および現象を下記表から選び、記入欄に機種記号と現象記号を組み合わせた形体で記載すること。

記入例) B02, B01 (複数記入可)

機種別分類		現象別分類	
A	全般	00	全般(設計、製造、規格、動向)
B	ポンプ	01	流れ(性能、キャビテーション、冷却)
C	水車	02	信頼性(強度、振動、材料、潤滑)
D	送風機、圧縮機	03	環境、騒音
E	蒸気タービン、ガスエキスパンダー	04	制御システム(保守、運転)
F	ガスタービン(含むジェットエンジン)	05	計測技術(可視化を含む)
G	風車		
H	構成部品一般(軸受、シール装置、ギヤ等)		
I	プラント		
J	ターボチャージャ		
K	プロペラ		
L	トルクコンバータ、流体継手		
M	容積型流体機械		
Z	その他		

## 2章 原稿執筆の注意点

### 2-1 用紙および文字数

1. 原稿用紙

- (1) 原稿はA4白紙を用いる。

2. 書式

- (1) パソコンを用い、A4縦 左横書きとする。  
 (2) 書式設定は21文字×37行に統一する。  
 (3) 使用可能なソフト、記憶媒体などについては「第7章 電子データ入稿要領」に従うこと。

3. 記述順序

- (1) 原稿執筆の順序は、題目、(英文タイトル)、著者名、著者所属、(E-mail)(アブストラクト)、(キーワード)、本文の順に記述する。  
 (2) 添付資料の原稿執筆見本を参照すること。  
 (3) 題目、英文タイトル、著者名、著者所属、E-mailは「第1章 原稿表紙、1-2章記載留意事項」を参照のこと。

4. 文字数

- (1) 掲載種類別ページ数(又は依頼ページ数)を超過しないように配慮すること。なお、掲載種類別ページ数は「ターボ機械協会誌投稿規程、3. 原稿の分類・定義」参照のこと。  
 (2) 刷り上り1ページ当たりの文字数は図表を含め\*1,554字(21字×37行×2コラム)である。  
 \*注 図表の文字換算は、執筆要領 3章3-3 2の図表の文字換算を参照方。  
 (3) 第1ページは表題、著者名、著者写真などが入るため下記の文字数を目安とする。

掲載内容	アブストラクト有り	アブストラクト無し
論文	693字(21字×33行)	
技術資料	693字(21字×33行)	903字(21字×43行)
展望・解説	651字(21字×31行)	903字(21字×43行)
その他		1,071字(21字×51行)

## 2-2 アブストラクトおよびキーワード

### 1. アブストラクト

- (1) 150 ワード以内の英文とする。
- (2) アブストラクトの要否は下記表による。

掲載内容	英文アブストラクトの要否
論文	必要
技術資料	省略可
展望解説	
その他	不要

### 2. キーワード

- (1) アブストラクトをつける場合は、5 つ以内の英語のキーワードを記載し、そのうちの少なくとも1つは「(3) キーワード」から選ぶこと。
- (2) 英単語の先頭文字は大文字で表記すること。
- (3) キーワード  
Pump, Hydro Turbine, Pump Turbine, Fan, Blower, Compressor, Steam Turbine, Gas Expander, Gas Turbine, Jet Engine, Wind Turbine, Propeller, Bearing, Sealing Device, Gear, Plant, Turbocharger, Torque Converter, Fluid Coupling, Positive Displacement Type Fluid Machinery  
Boundary Layer, Cavitation, Computational Fluid Dynamics(CFD), Control System, Cooling, Design, Design Optimization, Environment, Finite Difference Method, Finite Element Method(FEM), Finite Volume Method, Flow Phenomenon, Flutter, Lubrication, Maintenance, Manufacturing, Material, Measurement Technology, Modal Analysis, Noise, Numerical Analysis, Operation, Performance, Reliability, Rotor Dynamics, Secondary Flow, Separation, Shock Wave, Stall, Standard, Strength, Surge, Trend, Tribology, Vibration, Visualization

## 2-3 本文

### 1. 論文の体裁

- (1) 下記の順序を標準とするが、著者はその内容に適した最も効果的な形式を選ぶことが望ましい。
  - ア. まえがき(研究の目的, 文献検討による当論文の位置づけ, など)
  - イ. 記号
  - ウ. 本論(理論解析, 実験の方法と結果, 結果の解釈と考察, など)
  - エ. 結論
  - オ. 参考文献
  - カ. 付録その他
- (2) 添付の原稿執筆見本を参照すること。

### 2. 章, 節, 項などの番号

- (1) 章, 節, 項などの番号は次のようにつける。  
章 1. 2.  
節 1-1 2-1  
項 1-1-1 2-1-1あるいは(1)(2)(3)のようにする。  
項より下の小見出しは必要があれば①, ②, ③とする。

### 3. 原稿の記述

- (1) 記述はできるだけ簡潔にする。
- (2) 図および表を入れる箇所にはプリントアウトした原稿用紙の右欄外に図1 (Fig. 1) あるいは表1 (Table 1) のように手書きで記入し, 原稿には図表のためのスペースを設けない。

### 4. 使用言語

- (1) 日本語(和文原稿)または英語(英文原稿)とする。
- (2) 和文原稿の文章は口語体とし, 「漢字」は「当用漢字」, 「かな」は「ひらがな」を用い, 新かなづかいによる。ただし, 外来語はカタカナ・英字を使用してもよい。
- (3) 英文原稿の場合も, 「1. 論文の体裁」~「3. 原稿の記述」は和文原稿に準ずる。

### 5. 会誌記事における会社名, 製品名の表示について

- (1) 製品紹介を除く会誌記事中に宣伝になるような会社名, 製品名は掲載しないようにしているので配慮する。登録商標を普通名称のように使用すると商標権の侵害としてクレーム対象になる場合がある。
- (2) 書評に関しては発行所名が入るのはやむを得ないが, 単なる宣伝とならないよう配慮する。
- (3) 書評の執筆者名, 所属を文末に明記する。

## 3章 図（写真を含む）および表

### 3-1 取り扱いについて

1. 図(写真を含む)は著者提出のものをそのまま使う。
2. 不鮮明な場合は著者に再提出を求める。
3. 作成にあたっては「3-2節 作成について」を参照すること。

### 3-2 作成について

#### 1. 使用言語

- (1) 図(写真を含む)および表の使用言語は下記表による。

分類	キャプション	図表中の文字
論文	英語	原則英語
技術資料		
展望・解説		
他	英語、日本語のいずれでもよいが、1つの原稿中ではいずれかに統一する。	

#### 2. 本文中の表記の仕方

- (1) 本文中では「Fig.1」「Table 1」のように表記すること。

### 3-3 留意事項

1. 図および表は会誌の構成上ならびに読者の理解を深める上で特に重要であり、次の事項に留意願いたい。
  - (1) 白色の紙を使用する。
  - (2) 図および表のそれぞれについて、その記事を通じての通し番号を付ける。
  - (3) 図および表には、内容を的確に表わす簡単なキャプションをつける。
  - (4) コンピュータから出されたグラフを用いるときは、線が十分太く、かすれのない鮮明なものに限る。
  - (5) コピーしたものを原図として用いるときは、コピーの白地の汚れ、線のかすれ、ゆがみ、つぶれなどのない鮮明なものに限る。
  - (6) 本誌は白黒印刷でカラーの色の違いが出にくいいため、それに耐えられる図とする。
  - (7) 図の文字は、印字すること。文字の大きさは仕上り寸法で縦横2.8mm(8ポまたは12級)以上とする。
  - (8) 目盛は間隔が密になりすぎないようにする。
  - (9) 図の刷り上がり寸法は最長幅が73mm(半ページ幅)、155mm(全ページ幅)の2種類であり、縦の長さは197mmまで任意である。

#### 2. 図表の文字数換算(刷り上りの目安)

##### 【図】

高さ (mm)	概算数字 (字×行)	
	半ページ幅	全ページ幅
30	126 字分 (21×6)	252 字分 (21×12)
40	168 字分 (21×8)	336 字分 (21×16)
50	189 字分 (21×9)	378 字分 (21×18)
60	231 字分 (21×11)	462 字分 (21×22)

##### 【表】

表の行数	概算数字 (字×行)	
	半ページ幅	全ページ幅
5	84 字分 (21×4)	168 字分 (21×8)
10	168 字分 (21×8)	336 字分 (21×16)
15	252 字分 (21×12)	504 字分 (21×24)
20	336 字分 (21×16)	672 字分 (21×32)

ただし、図および表の刷り上がりの最大は1ページ(文字数1,554 字分)とする。

## 4章 量記号および単位記号，文字，数字記号および式について

### 4-1 文字の指定

1. プリントアウトした原稿に下記の文字指定事項を追記すること。
  - (1) 文中，式中で斜体(イタリック体)とすべき文字は赤字で“イタ”と表示するか文字の下に青線を入れる。
  - (2) 立体とすべき文字には赤字で“立体”と指定する。
  - (3) ギリシャ文字はその直上に赤字で“ギ”と指定する。
  - (4) 上付き，下ツキを， $\wedge$   $\vee$ で指示。  
(例)  $a^3$   $a_1$
  - (5) まぎらわしい文字はとくにはっきり書き，わかりやすく指示する。  
(まぎらわしい文字例)

0 (ゼロ)	w (ダブルユー)	p (ピー)
O (オー)	$\omega$ (オメガ)	$\rho$ (ロー)
a (エー)	1 (イチ)	u (ユー)
$\alpha$ (アルファ)	l (エル)	n (エヌ)
r (アール)	e (イー)	v (ヴイ)
$\gamma$ (ガンマ)	l (エル)	v (ニュー)
k (ケー)	e (イー)	u (ユー)
K (カッパ)	c (シー)	

C, O, P, S, W, X, Y, Z などの大文字と小文字

### 4-2 用字・用語例

1. 論文またはこれに準ずる原稿では，副詞，連体詞，接続詞，助詞などは原則として平がなで書くこと。その例を表2に示す。

表2 用語例

可	不可	可	不可	可	不可
あいにく	生憎	いっぺん	一遍	たいそう	大層
あえて	敢て	かえって	却って	ただ	唯，只
あたかも	恰も	かなり	可也り	ちょっと	一寸
あるいは	或いは	かねて	予て	…ついて	…就いて
いう	云う	ここ	此处，是，茲	ついに	遂に
いかなる	如何なる	この	此の，之の	とおり	通り
いづれ	何れ，孰れ	しかし	然し，併し	はなはだ	甚だ
いつ	何時	しばらく	暫く	ひとつとおり	一通り
いっしょ	一緒	すべて	総て，凡て	もし	若し
いっせい	一斉	せっかく	折角	もって	以って
いっそう	一層	その	其の	やっかい	厄介
いったん	一旦	それ	夫，其	…ら	…等

### 4-3 単位・量記号

1. 単位記号・量記号
  - (1) 本文に使用する単位はSI(国際単位系)とする。
  - (2) SIの使用についてはJISZ8203を参照されたい。
  - (3) 量記号はJISZ8202による。
2. 字体他
  - (1) 量記号は斜体，単位記号と元素記号は立体とする。
  - (2) 図や表に使用する単位で，必要と思われるものには，換算法を付記する。

### 3. SI単位

- (1) 次によく使用されると思われる単位で誤りやすいものを示す。

SI(国際単位系)

時間	秒	s(sec としない)
質量	キログラム	kg(キロk は小文字)
熱力学温度	ケルビン	K(°K としない)
仕事率	ワット	W(大文字である)
工率		
動力		
熱流		
電力		
接頭語	メガM, キロk, センチc, ミリm, マイクロμ	

### 4. 記載留意事項

- (1) 量記号は下記例を参考にして、本文に記号と量の意味を明記すること。また記述順序は原稿執筆見本による。

量記号記載見本

k	形式数(type number)
$k_2$	羽根出口におけるすべり係数
n	回転数( $s^{-1}$ )または ( $min^{-1}$ )
Q	流量 ( $m^3/s$ )
$Q_0$	最高効率点における流量 ( $m^3/s$ )
R	半径(mm)
$r_2$	羽根出口半径(mm)
$U_2$	羽根外周速度(m/s)
$V_m$	メリディアン方向速度(m/s)

#### 4-4 数学記号および式

##### 1. 数学記号および式

- (1) 数学記号はJISZ8201 による。数式の中の文字は一般に斜体(イタリック体)であるが、量記号でない log, sin, cos, e, exp や数字などは立体とする。前項の方法で指定すること。
- (2) 文中の数式は  $(a+b)/(c+d)$  のようにする。なお、長い分数で改行する場合は、改行位置に注意し、数式の意味を誤認されない箇所で行改行すること。

## 5章 参考文献について

1. 文献は本文の末尾にまとめて通し番号順(本文中で引用される順)に記載する。
2. 本文中では引用箇所の右肩に通し番号を小カッコで記入する。
  - (1) 引用文献が1件のときの指示例  
例:○○○の解析<sup>(1)</sup>
  - (2) 引用文献が複数あるときの指示例  
例1:○○○の解析<sup>(1)~(3)</sup>  
例2:○○○の解析<sup>(1)~(3)(7)</sup>
3. 文献は次の記載方法による。

### <雑誌の場合>

①著者名, ②題名, ③雑誌名, ④巻数—号数(発行年—月), ⑤ページ.

例: (1)九郎丸・他4名, 二重位相固定法による旋回失速セルの動画作成, ターボ機械, 27-8(1999), 502.

(2)Inoue M.・他3名, Propagation of Multiple Short-Length-Scale Stall Cells in an Axial Compressor Rotor, Journal of Turbomachinery Trans. ASME, Vol.122(2000), 45.

### <書籍の場合>

①著(編)者名, ②書名, ③巻(1巻のみの場合は不要), ④(発行年), ⑤ページ, ⑥発行所. をこの順で記載する。

例: (1)井上・木村・古池・他2名, 振動の考え方・とらえ方,(1998),84,オーム社.

(2)King,R.J., Tobin,M.G., Flow in a Centrifugal Fan of the Squirrel-Cage Type, Trans.ASME,112(1990),84.

注1) 各項目は「,」(カンマ)で区切る。

注2) 著者が3名以上の場合には, 第一著者名の後「・他〇名」というように記載する。但し著者3名以上の場合でも第一著者名以外の著者名も記載することができる。和文の場合は, 姓のみ記載し, 著者と著者は「・」(センタードット)で区切る。

例:「山田・田中」,「中村・他2名」

また, 英文(欧文)の場合は, 姓を記載し「,」(カンマ)で区切ってイニシャルを記載する。著者と著者は「,」(カンマ)で区切る。

例:「Zimmerman, R., Harmon, H. A.」「Harmon, H. A.・他2名」

注3) 誌名は省略形がある場合にはこれを使用する。

注4) 発行年—月は西暦で記載する。なお, 書籍の場合は発行月を省略してよい。

注5) ページは, 雑誌の場合には最初のページ(通しページ)を用いて記載する。

## 6章 照会および校正

1. 会誌に掲載する原稿については, 本会において字句あるいは用語などを修正することがあるのでご了承願いたい。
2. 送付された著者校正用原稿については, 必要な指示事項を記入して期限内に返送願いたい。
3. 著者校正の段階で原稿内容の変更・訂正などによる文章の追加・削減は受け付けない。したがって原稿作成に際しては, 特に下記の点に留意されたい。
  - (1) 原稿は十分推敲されていること。(校正の際は, タイプミス以外は訂正できない)
  - (2) 文字や記号は明瞭に書き、:必要に応じて「注」をつけること。



## 7章 電子データ入稿要領

1. 電子データによる入稿は下記表に留意すること。

（本文および ア ブ ス ト ラ ク ト）	適用ソフト	OS:Mac	Word	
		OS:Win	Word	
	書式設定	用紙サイズ	A4縦	
		文字数×行数	21文字×37行	
		文字方向	横書き(左詰め)	
	字体	明朝		
文字入力	◇ 欧文と2桁以上の数字は、全て半角で入力			
	◇ カッコや丸付き文字や単位などにおいて、記号文字は一切使用しない。(単位は ◇ 音引き(ー)とハイフン(-)の違いに注意する。 ◇ 数式は文字入力とする。(ルート、分数などうまく数式を表現できないときは、プリントアウトした原稿に完成状態のものを明記する。) ◇ わかりにくい文字は、プリントアウトした原稿に指定記号を追記する。(原稿執筆要領4-1参照)			
保存方法	◇ 無圧縮とする。			
図	形式	◇ eps, jpg, tif, の3種とする。		
	保存方法	◇ 無圧縮とする。 ◇ 各1点につき1ファイル名で保存する ◇ ファイル名の付け方 図(写真)は「F」の文字で表し、たとえば図1なら、「F01. (拡張子)」とする。		
表	ソフト	OS:Mac	Word または シンプルテキスト形式	
		OS:Win	Word または テキスト形式	
	保存方法	◇ 無圧縮とする。 ◇ 各1点につき1ファイル名で保存する ◇ ファイル名の付け方 表は「T」の文字で表し、たとえば表1ならば、「T01. (拡張子)」とする。		
記憶媒体	◇ MO, CD, DVDいずれも対応可能 ただし、Windows専用フォーマットのもの使用不可 【注意事項】 ◇ 記憶媒体には、執筆代表者の所属名、氏名、および原稿・図・表のファイル名を明記する。			
その他	◇ 不慮の事故等による電子データの破損等が発生する恐れがありますので、執筆代表者は必ず電子データのバックアップを実行し、保管願います。 ◇ バックアップデータ保管期限: 出版されるまで			

## 8章 入稿に必要なもの

1. 入稿に際し必要なものを下記表に示す。

必要なもの		論文	その他
ターボ機械原稿表紙	本書(記名・押印したもの)	1部	1部
原稿①(文字のみ) (21字×37行の書式)	プリントアウトした本書	1部	1部
原稿②(図や表を挿入したもの) (21字×37行×2コラムの書式)	プリントアウトした本書	1部	1部
図、表	各図表プリントアウトした本書	1部	1部
電子データ	(原稿①・原稿②・顔写真・図・表の記憶されたもの)	記憶媒体 1部	記憶媒体 1部

※以上の資料を同封しターボ機械協会まで郵送する。電子メールの添付ファイルでも受け付ける。この場合、プリントアウトした書類は不要である。

2. 顔写真

(1) 顔写真の要否は下記表による。

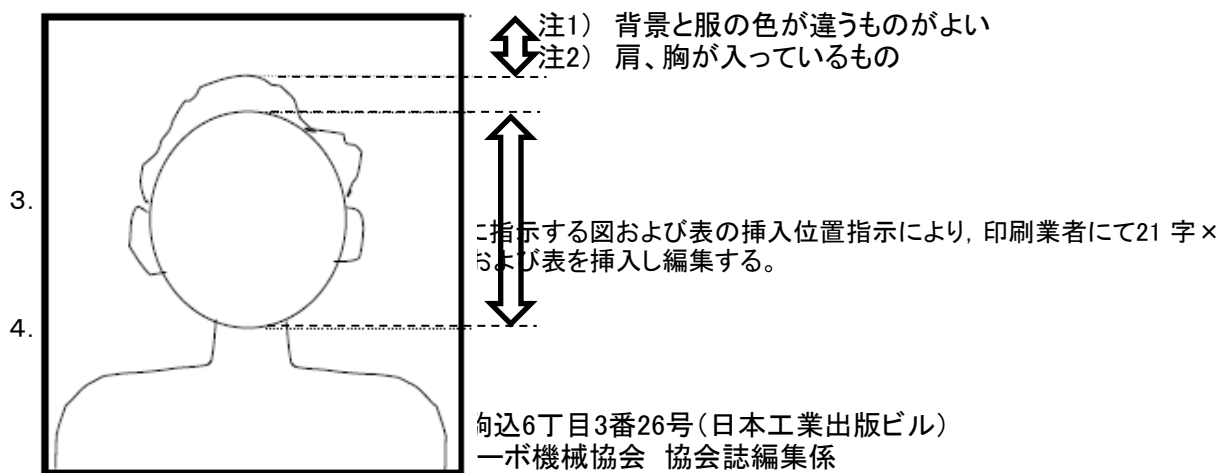
掲載内容	顔写真の要否
論文	不要
展望・解説	要
技術資料	不要
随筆・サロン	要
分科会報告	分科会の意向による
製品紹介	不要

(2) 入稿方法

- ア 基本的に電子データとする。
- イ 形式はeps,jpg,tifのいずれかとする。
- ウ 画質は350dpi以上の解像度とする。
- エ データがない場合はプリント写真(カラー・白黒どちらでも)可。
- オ 写真の大きさ等は下図による。

5mm以上

2.2cm以上



(2) のりこ

一般社団法人 ターボ機械協会

Tel:03-3944-8002 Fax:03-3944-6826

E-mail: turbo-so@pop01.odn.ne.jp

以上

# ターボ機械原稿表紙

掲載欄	論説 展望・解説 論文 技術資料 講座 分科会報告 座談会記事 文献抄録 製品紹介 研究室紹介 随筆・サロン 会員の声 見学記 会議報告 その他 (該当するものを○印で囲んで下さい)					
題目	邦文タイトル： 英文タイトル*： *＜論文＞＜展望・解説＞＜技術資料＞の場合は必ずご記入ください。					
執筆者	氏名 [邦] [英]			勤務先 (退職されている場合、差し支えなければ旧勤務先をご記入下さい)		
	連名者	氏名 [邦] [英]	勤務先			
連絡先	〒 _____ TEL _____ FAX _____ E-mail _____ (E-mail アドレスの記載：可・不可 どちらか○で囲んでください)					
未投稿の確認	この論文は他誌に未投稿であることを誓約します。 (論文投稿の方のみお書き下さい) 平成 年 月 日 執筆者 (代表者) _____ 印					
原稿 頁 図 点 表 点						
発送日 平成 年 月 日 受付日 平成 年 月 日						
著作権行使 委任承諾	この原稿は、ターボ機械協会倫理規定を遵守して執筆されたことを誓約します。 この原稿の著作権行使に関わる諸手続をターボ機械協会に委任することを承諾します。 平成 年 月 日 代表者 _____ 印					

機種別分類	現象別分類
A 全般	00 全般 (設計、製造、規格、動向)
B ポンプ	01 流れ問題 (性能、キャビテーション、冷却)
C 水車	02 信頼性 (強度、振動、材料、潤滑)
D 送風機、圧縮機 (含む容積形)	03 環境、騒音
E 蒸気タービン、ガスエキスパンダー	04 制御システム (保守、運転)
F ガスタービン (含むジェットエンジン)	05 計測技術 (可視化)
G 風車	
H 構成部品一般 (軸受、シール装置、ギヤ等)	
I プラント	
J その他	
記入欄	(記入例 B01, F02 複数記載可)

<b>注意事項</b> 詳細は執筆要領をよくお読みください。						
分類	論文	展望・解説	技術資料	分科会報告	随筆・サロン 会議報告	その他
英文アブストラクト	要	省略可	省略可	不要		
英文キーワード	要	省略可	省略可	不要		
図表キャプションの英語	要	要	要	英語、日本語のいずれでもよいが、 どちらかに統一する。		
図表中文字の英語	原則要	原則要	原則要			
顔写真	不要	要	不要	分科会の意向による	要	不要

